



甲斐市立敷島小学校
令和4年度 研究の概要

1. 研究主題・副題

「自ら考え 共に表現し合い 学びを深める 児童の育成」
～ I C Tの効果的な活用を通じた個別的・協働的な学びの実現～

基本方針：①「一人一台端末」・「高速通信ネットワーク」・「クラウドサービス」の効果的な活用方法についての研修を行うとともに、それをもとに授業実践を行い、実践記録を作成する。
②甲斐市G I G Aスクール構想に基づき、児童の I C T機器の活用スキルの向上を図る。

2. 主題設定の理由

2-1. 社会情勢と今日的教育課題から

現代社会は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域で重要性を増す、いわゆる知識基盤社会である¹。情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきていることを踏まえ、複雑で予測困難な時代の中でも、児童一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協議しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、教育を通してそのために必要な力を育てていくことが喫緊の課題である²。

また、昨年度より、「一人一台端末」と「高速大容量の通信ネットワーク」を一体的に整備することで、特別な支援を必要とする児童を含め、多様な児童を誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 I C T環境の実現を目指す「G I G Aスクール構想」が推進されている。

「甲斐市G I G Aスクール構想」でも、I o T、ビッグデータ、人工知能（A I）、ロボット等をはじめとする技術革新が一層進展するとされる「Society5.0」という新しい社会を生き抜くためには、膨大な情報の中から必要なものを主体的に選択する「情報活用能力」や「創造性」を育み、時代が求める新しい学習スタイルを確立し、推進する必要があるとされている³。新しい学習スタイルでは、「Google Workspace for Education」といった優れた学習ツールを活用し、他者とつながることで「主体的・対話的で深い学び」を目指すのである。

¹ 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』, 東洋館出版社, 2018年, 22頁。

² 文部科学省, 前掲書, 22-23頁。

³ 甲斐市教育委員会 I C T推進委員会『甲斐市 G I G A スクール 2022 年度 ICT 教育推進計画』, 2022年, 76頁。

ICT環境の整備，その活用により，「一斉指導による学び（一斉学習）」に加え，「子供たち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）」，「子供たち同士が教えあい学び合う協働的な学び（協働学習）」をこれまで以上に推進することが可能となっている。（図1）こうした学習の在り方は，「主体的・対話的で深い学び」と深く関連しており，その実現を推し進めるものであると考えられる。

そこで，今年度の研究では，上記の社会的情勢や教育課題を踏まえ，「一人一台端末」・「高速通信ネットワーク」・「クラウドサービス」を，「一斉学習」だけでなく，「個別学習」や「協働学習」の場面でも効果的に活用する手立てを追究していくこととした。

図1 学校におけるICTを活用した学習場面



⁴独立行政法人教職員支援機構「児童生徒の協働的な学びにおける ICT 活用：オンライン研修教材」より

2-2. 本校の研究経過

本校では，平成 28・29 年度に，甲斐市教育委員会から「小中連携教育推進事業」の研究指定を受け，義務教育の 9 年間を見通した学びと心を育む指導の研究を行った。学習指導部会，道徳教育部会，児童生徒交流部会の 3 部会が核となり研究に取り組み，多くの成果を挙げた。事業は一区切りとなったが，小中が連携する活動は継続してきている。

その成果と課題を生かし，平成 30・令和元年度は，「特別の教科 道徳」を研究の中心に据え，「主体的・対話的で深い学び」の実現，「考え，議論する道徳」への転換に向けた指導方法の改善を目指し

⁴ 独立行政法人教職員支援機構「児童生徒の協働的な学びにおける ICT 活用：オンライン研修教材」，
https://www.nits.go.jp/materials/intramural/files/083_001.pdf（閲覧日：令和 4 年 4 月 18 日），3 頁。

た。低・中・高の各ブロックにおいて指導案検討を行い、物事を自分事として捉え、多角的・多面的に考えられるような発問の工夫や考えを明確にしたり深めたりするための意図的な問い返し、児童が自分の考えを素直に言い合えるような学級の雰囲気づくり等を目指し、授業提案や全職員による参観、研究会を行った。

令和2・3年度は、研究主題「伸びる・描く・共生 学びをつなぐ子どもたち」副題「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりを通して」の下、主（見通す、考え・興味を持つ）・対（自己内対話、他者対話）・深（思いや考えを広げる、振り返る）の具体的な取組方法について研究し、授業の改善と充実を図った。「アクティブ・ラーニング」の6つの学習要素の視点から、児童の課題点や身に付けさせたい力を明確にし、低・中・高の各ブロックにおいて多様な教科の指導案検討を行い、授業提案やブロックごとの教職員による参観、研究会を行った。昨年度末には、これまでの成果を踏まえ、『「主体的・対話的で深い学び」の研究継続』という方針が示されている。

以上のように、本校では多様な教科や領域で、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す研究が行われてきた。今年度は、これまでの研究の成果、そして社会情勢と今日的教育課題を踏まえ、「個別学習」や「協働学習」といった学習場面でのICTの有効的な活用を通して、多様な教科や領域で「主体的・対話的な深い学び」の実現を目指していきたい。

3. 研究目標について

まず、研究の土台となる「一人一台端末」を活用する能力の向上を目指したい。『甲斐市GIGAスクール2022年度ICT教育推進計画』に示されている「スキルアップシート」を目安とし、日常的な一人一台端末の使用を積み重ね、児童も教職員もICTを活用できるようにしていく。

次に、「個別学習」や「協働学習」の場面でICTを活用し、多様な教科や領域での効果的な授業実践を積み重ねていきたい。ICTをただ使用するのではなく、「個別学習」や「協働学習」の場面で意図的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を活発なものにすることを目指していく。(表)

表 「主体的・対話的で深い学び」の要点

<p>主体的な学び</p>	<p>学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら，見通しを持って粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる。 ⇒子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに，学習活動を自ら振り返り意味付けたり，身に付いた資質・能力を自覚したり，共有したりすることが大切。</p>
<p>対話的な学び</p>	<p>子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める。 ⇒身に付いた知識や技能を定着させるとともに，物事の多面的で深い理解に至るためには，多様な表現を通じて，教職員と子供や，子供同士が対話し，それによって思考を広げ深めていくことが求められる。</p>
<p>深い学び</p>	<p>習得・活用・探求という学びの過程で，各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたりすることに向かう。 ⇒子供たちが，各教科等の学びの過程の中で，身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて，資質・能力がさらに伸ばされたり，新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。</p>

⁵山梨県教育委員会 「「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて（アクティブ・ラーニングの視点から）」より作成

4. 研究内容

(1) G I G Aスクール研修会の実施

一人一台端末の基本的な使用方法やその指導方法，授業等での活用方法について，研究主任を中心に研修を行う。主に，他校での実践の紹介，外部機関での研修内容等の還流を行う。

また，外部から講師を招聘し，より先進的で効果的な実践について理解を深める。

(2) 日常的な一人一台端末の使用等による活用能力の育成

『甲斐市G I G Aスクール2022年度ICT教育推進計画』に示されている「スキルアップシート」を目安とし，各学年において発達段階に応じたICTの活用能力を育む。

⁵ 山梨県教育委員会 「「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて（アクティブ・ラーニングの視点から）」，
<https://www.ypec.ed.jp/gimukyo/kenkyu/ymns/all.pdf>（閲覧日：令和4年4月18日）。

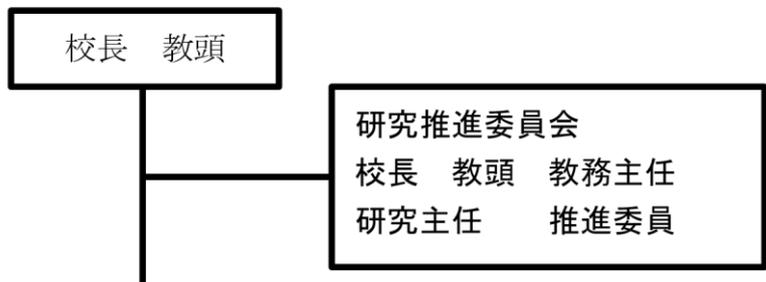
(3) 学年・ブロックを中心とした実践計画案，実践記録の作成と報告

学期のはじめには，学年ごとに，どの時期に，どの教科・単元で，どのような場面で，どのような方法でICTを活用するのかを構想し，ICT活用実践計画案を作成する（研究推進委員会にて共有）。その計画案に基づいて学年ごと統一した実践を行い，その結果を実践記録にまとめる。学期の終わりには，ブロックごとの報告会を設け，特に効果的だと思われる事例を学年ごと複数取り上げてまとめる。

5. 研究の方法

- (1) 研究に当たり，研究推進委員会，全体研究会，ブロック研究会，各学年部会を設ける。
- (2) 低・中・高の3ブロックを組織し，児童の発達段階や実態に合わせて研究を進めてい

6. 研究組織（令和4年度4月時点）



全体研究会					
低学年ブロック		中学年ブロック		高学年ブロック	
1 学年部会	2 学年部会	3 学年部会	4 学年部会	5 学年部会	6 学年部会
中村 大谷 齊藤し○ 高橋	山田 佐藤 槌屋	竹之内 山宮○ 深澤	小林 藤井 片山	江頭 本間 清水	望月 清水 桐山○
向山	遠藤	久保田	眞下	教頭	齋藤よ
		堀内	末木	細田	河住
		五味	川口	田中	森本

○…研究推進委員

7. 研究計画

	研究会名	開催日	主な形態	主な研究・活動内容
一学期	第1回推進委員会	4月11日(月)	推進委	研究の方向性・研究主題・副題・他事業との関連等(校長・教頭・教主・研究主・学年1名・特支1名)
	第1回校内研究会	4月18日(月)	全体研	本年度の研究の方向性について(研究の概要・重点・組織・計画等)センター申込み, 初任研について, 学校での取組
	第2回校内研究会	5月25日(水)	全体研	ICT実践計画案についての提案「一人一台端末活用のルール」についてGIGAスクール学習会
			学年	1学期の実践計画案構想・作成
	第3回校内研究会	6月15日(水)	全体研	GIGAスクール学習会
	山日NIEセミナー	6月18日(土)		指定校におけるこれまでの事業, 取組の報告
	第4回校内研究会	7月25日(月)	全体研	GIGAスクール学習会 山日NIEセミナー還流報告(これまでの実践事例の検討)
ブロック			1学期の実践記録報告	
二学期	第5回校内研究会	8月19日(金)	全体研	GIGAスクール学習会 NIEにおけるこれからの研究の方針・方向性確認
			学年	2学期の実践計画案構想・作成 NIEに関する取組内容の検討
	第6回校内研究会	9月12日(月)	全体研	GIGAスクール学習会 山日新聞活用学習支援サイト「さんスタ」の概要と活用方法の説明
	第7回校内研究会	10月19日(水)	全体研	GIGAスクール学習会
第8回校内研究会	11月16日(水)	全体研	ICT学習会 (講師: 県総合教育センター指導主事 飯窪優先生)	
三学期	第9回校内研究会	1月18日(水)	学年	3学期の実践計画案構想・作成 これまでのICT実践報告作成 令和5年度に向けたNIE実践例の検討
	第10回校内研究会	2月22日(水)	全体研	本年度の研究の総括・来年度の研究の方向性の確認

